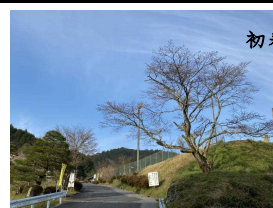




真庭市立月田小学校 学校だより

大門坂



初春の大門坂



学び続け、豊かな心を持ち、
たくましく生きる子どもの育成
<https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/82/>

第54号(最終号)
令和4年 3月18日
校長 漕友 尚 発行
月田小学校 ←

卒業おめでとう！次のステージでの活躍を見守っています

【集合写真】



本日第18回卒業証書授与式が行われ、7名の卒業生が、学び舎を巣立っていきました。皆さんが最高学年として活動してくれました。令和3年度もコロナ禍が始まり、コロナ禍で終わりを迎えました。未だ先行きが見えない不安が、世界中を覆いつくしている状況が続いていいます。そのコロナ禍の影響で、令和3年(2021)年度には、夏と冬のオリンピックが開催されるという史上かつてない年になりました。学校での諸行事も、感染症予防の工夫をしながら手探りの実施でし、それでも皆さんは、児童会活動やクラブ活動、毎日の縦割り班活動をはじめ、探りの実施で、その縦割り班活動でも、立派な活躍の学校行事・校外行事等の場

を見せてくれました。なかで開催された9月の運動会、下級生をリードする6年生の姿に、最高学年として月田小を引っ張ってほしいと感じました。特に上学年で踊ったエイサーは、素晴らしい仕上がりを見せられ、その力強い踊りはまだ、私のまぶたに焼き付いています。11月の学習発表会は、体育館の密状態を避け、リモートで教室に配信しながらの開催でした。5年生と一緒に取り組んだ劇「空の上からのぞいてみれば」、学校での学びの成果をふんだんに取り入れ、メッセージ性の強いものになりました。1学期から延期されていた修学旅行は、12月の四国高知県・香川県への旅でした。高知県桂浜から臨む広大な太平洋、同じ風景をあの坂本龍馬も見て、この国に行く末を考えたはずですが、あんな思い出、こんな思い出…どんな時にも必ず、あなた方には笑顔がありました。あなた方の活躍は下級生のお手本になり、今後月田小の伝統として引き継がれていくことでしょう。卒業おめでとう！皆さんが心身共に健康で、中学校という次のステージで活躍してくれることを教職員一同、見守っています。

学校支援ボランティア募集中！

今年1月から随時受け付けています。お尋ねは、月田小学校(TEL44-2409)までお願いします。

保護者・地域の皆様、1年間ご支援・ご協力を賜りありがとうございました。来年度こそは、「日常」が戻って来る年であることを願ってやみません。引き続き、よろしくお願いいたします。



3/4 6年生を送る会

3月4日(金)6年生を送る会を開催しました。5年生が企画した出し物やメッセージカード、お世話になった先生や先輩への感謝の気持ちを伝える機会となりました。当日は、6年生が中心となり、5年生がサポートする形で、6年生を送る会を行いました。当日は、6年生が中心となり、5年生がサポートする形で、6年生を送る会を行いました。



3/7 アウトリーチコンサート

3月7日(月)にサクソフォン奏者の國末貞さんとピアノ奏者の中川賢一さんにお出でいただき、アウトリーチコンサートを開催しました。アウトリーチ事業では、優れたアーティストが学校や地域に出向いて、特に子ども達に対して、豊かな感受性や表現力、想像力を育む「G光線」の「お二人の素晴らしい演奏」という間の5分間でした。



公益社団法人全国珠算教育連盟

珠算技能優秀者表彰

6年 杉 真海さん

「おか山っ子」本部審査

準特選 5年 杉 瑞樹さん



令和4年度4月の行事予定

- 7日(木) 短縮3時間/着任式/始業式/一斉下校
11:15(1~4年)・12:00(5・6年) / 式場設営
 - 8日(金) 短縮3時間/入学式
 - 11日(月) 短縮4時間/給食開始/地区児童会/下校指導(通学路点検)
 - 12日(火) 短縮5時間/集金日/身体測定
 - 13日(水) 短縮5時間/前期縦割り班顔合わせ
 - 14日(木) 短縮5時間/視力検査
 - 15日(金) 短縮5時間/退任式
 - 18日(月) 児童朝礼/わくわく/委員会
 - 19日(火) 全国・岡山県学力・学習状況調査(3~6年)
 - 20日(水) 避難訓練(経路確認)
 - 21日(木) 1年生を迎える会
 - 22日(金) 短縮5時間/読み聞かせ/参観日・月田奨学会総会・学級懇談
 - 26日(火) 短縮4時間/家庭訪問
 - 27日(水) 短縮4時間/家庭訪問/聴力検査
 - 28日(木) バス遠足(ライフパーク倉敷)
 - 29日(金・祝) 昭和の日
- ※ 月田小学校HPにも2か月分の行事予定を掲載しています。



トピック 校長室 ③

吉田知那美選手

ロシア軍のウクライナ侵攻があり、随分前のことのようにですが、今でも時々、北京冬季五輪の余韻に浸ります。日本人として寂然としないジャッジもありましたが、カーリング「ロコ・ソラーレ」の大活躍は連日感動を与えてくれました。ロコ・ソラーレの本拠地は北海道北見市常呂(とことろ)町、オホーツク海に面したサロマ湖を臨む街です。合併前の常呂町は人口4,900人の小さな町で、「ロコ」とはこの「トコロ」と「ローカル」を掛け合わせたネーミングなのだそうです。

サード担当の吉田知那美選手のコメントの秀逸ぶりがしばしば話題になっていましたが、前回ピョンチャン五輪での「そだねー」も、彼女が主に発していたのだそうです。その吉田選手はピョンチャン五輪で銅メダルを獲得し、故郷に凱旋した時にこんなコメントを残しています。

「この町、何も無いよね。小さい頃はここにいたら夢は叶わないんじゃないかと思っていました。でも今は、この町じゃなきゃ夢は叶わなかったと思います。」

関係者が聴いたら、涙が出るくらい感動的なコメントですよね。これを聴いた時、「これまで自分は、真庭の子ども達をしてこう言わしめる育みができたのだろうか」と、ふと考えました(いえいえ、決して真庭に何も無いということを行っているわけではありませんから、念のため)。

【吉田選手写真】